

学校教育目標 一たすけあつ くじけな い すすんでまなぶー											4(目標を上回る達成) 3(達成・概ね達成) 2(目標を下回る未達成) 1(目標を大きく下回る未達成)				評価		短期経営目標の達成状況
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための の方策	評価項目 (数値目標)	評価指標	評価方法	評価基準				担当	9月	2月					
						4	3	2	1								
確かな学力 ◎主体的・協働的に学ぶ児童の育成	基礎学力の向上	●授業構成の工夫(定着時間の確保) ●タブレットを活用した反復練習	・単元テスト(国・算)の到達度を学級平均80点以上にする。	学期の単元テスト到達度の平均点	1-6年生の19の通常学級の内、指標を上回る学級数	19学級の内 16学級以上	19学級の内 14学級以上	19学級の内 11学級以上	19学級の内 11学級未満	教務部	2	2	国語の単元テストの到達度は、19学級中18学級が平均80点を上回った。算数の単元テストの到達度は、19学級中11学級が平均80点以上であった。国語では、漢字のまとめテストの前に八小検定を行った。算数では、学習の定着を図るためにミライシードを活用したドリル学習や、習熟度に合わせた教科書の補充問題に取り組みさせることを行った。しかし、算数においては、単元後のテストについては理解していたものも、時間を置くことと忘れていることがあったので、単元をつないだ取組や学習の仕方が必要となる。				
	主体的・対話的で深い学びのある授業の創造	●ユニバーサルデザインの視点を踏まえた授業づくり ●タブレットの積極的な活用 ●体験活動の場の充実	・「わかる」「できる」「やってみよう」を実感している児童を80%以上にする。	児童の回答の割合	児童アンケート	85%以上	80%以上	75%以上	75%未満	研修部	4	4	児童アンケートの結果、「学校の授業で『わかる』『できる』と思う」と回答した児童は96.2%、「学校の授業で『やってみよう』と思う」と回答した児童は、93.8%だった。アセスメントに基づく指導案検討や研究授業での協議、講師からの指導助言、校内研修での成果の共有などが、教員の授業力向上に繋がったと言える。一方で、「学校の授業で『やってみよう』と思わない」と回答した児童は、「難しい」「思いつかない」「楽しくない」と理由を挙げていた。UDL(学びのユニバーサルデザイン)の視点をさらに浸透させ、学びの選択肢(オプション)を適切に提示することや、算数コーナーでの体験活動を充実させることで、児童の苦手意識を払拭していく必要がある。				
豊かな心 ◎豊かな感性と思いやりの心をもつ児童の育成	いじめのない楽しい学校	●いじめの早期発見・早期対応 ●認め合う学級集団作り(多様性の理解) ●自己の振り返りの充実	・「学級で安心して生活することができる」児童を85%以上にする。	児童の回答の割合	児童アンケート	肯定的評価 90%以上	肯定的評価 85%以上	肯定的評価 80%以上	肯定的評価 80%未満	生徒指導部	4	4	児童アンケートの結果、「学校で安心して生活することができる」と回答した児童は、90%だった。問題行動が起こった際、学年部で協力して聞き取りを丁寧に行い、生徒指導主事や管理職とすぐに連携を行うことで対応していることが、児童の安心感につながっていると考えられる。一方で、安心できないと回答した児童からは、「先生の指示を聞かない」や「友達に悪口を言われた」「たたかれた」という理由があった。一部の児童は自分の思いを表現する手段が暴言や暴力、離席になっているため、保護者の方と連携を取りながら、関係機関等にも相談をし、全ての児童が安心して学校生活を送ることができるよう環境の土台を構築したい。				
	積極的に挨拶をする児童の育成	●職員による挨拶の率先垂範 ●地域と連動した挨拶運動の推進	・「3つの点(自分から、目を見て、伝わる声で)を意識して挨拶している」児童を75%以上にする。	児童・保護者の回答の割合	児童・保護者アンケート	80%以上	75%以上	70%以上	70%未満		3	4	全体で児童からの肯定的な評価は81.7%であった。児童会のあいさつ運動を中心に、「アイ、愛、あいさつ」を合い言葉に学校全体で挨拶を意識した学校生活を送ることができた。学校近くの交差点で登校の見守りをしてくださっている方からは、「高学年があいさつのお手本になるようにもう少し頑張してほしい」という声もある。挨拶の大切さや意味について、高学年が良いお手本になれるように、学級や学校全体で指導をしていきたい。				
たくましい体 ◎くじけない強い意志とたくましい体を備えた児童の育成	基本的な生活習慣の確立	●保護者への啓発活動及び連携(生活リズムアンケートの効果的活用) ●情報モラル教育の計画的実施	・設定した「スクリーンタイムを守っている」児童を80%以上にする。	目標を達成した児童の割合	生活リズムアンケート	85%以上	80%以上	70%以上	70%未満	保健安全部	2	2	実施アンケートによると、「スクリーンタイムを守っている」児童は6月は76.0%、9月は77.8%、1月は77.3%だった。各学級でスクリーンタイムの啓発動画の視聴と、生活リズムアンケートから「けんこうちょきん」と形式の一新を図り、児童の意識を高めるように努めたが、目標値には届かなかった。土日のスクリーンタイムを守れない割合が増加している。来年度は、土日のスクリーンタイムを守るように保護者に働きかけること、パソコンやスマートフォンの利用以外にできることを呼びかけることで、少しでも守ろうとする児童を増加させていくようにしていきたい。また、保護者の声を聞き、取組に生かせる仕組みづくりを構築したい。				
	基礎体力の向上	●外遊びの推奨 ●体育科の授業研究 ●体力向上のための環境づくり	・「体育の時間(運動することが楽しい)」と感じている児童を90%以上にする。	児童の回答の割合	児童アンケート	95%以上	90%以上	80%以上	80%未満		3	3	実施アンケートによると、肯定的評価は92.4%だった。主な取組としては、体力推進リーダーと各学年の体育担当者を中心に、運動場の共有や練習の仕方等について事前に話し合い、授業を進めるようにした。また、11月からは「外遊びday」、2月には「なわとび大会」に取り組み、運動に親しむため機会を設けた。来年度は、体育科授業のより一層の充実を図るために、学校全体で体力向上マネジメントを行ってきたい。				
その他 ◎信頼される学校づくり ◎健全な職場づくり	保護者や地域への誠実・迅速な対応	●受容的な学級経営の推進と、「報告・連絡・相談」を徹底した組織的な対応	・「地域や保護者に気持ちのよい対応をしている」のアンケート項目において、肯定的評価を90%以上にする。	保護者の回答の割合	保護者アンケート	95%以上	90%以上	85%以上	85%未満	総務部	3	3	信頼される学校づくりのため、保護者や地域への誠実・迅速な対応に務めた。今年度は特に、早めの情報提供と保護者と信頼関係作りを大切にしたい。年度始めの学級懇談会・希望懇談会の実施、SNS等児童実態を踏まえた教育活動の実施と保護者への啓発活動、不登校など関係機関との連携による保護者面談の実施・子育て情報の発信、生徒指導事案の保護者即日対応等である。その結果、保護者アンケート「地域や保護者に気持ちのよい対応をしている」「『学校だより』や『学年だより』など、学校からの情報発信が充実している」とも肯定的評価は、90%だった。また、通学路変更についても早めの発信・連携をPTAと協力して行い、地域・保護者の協力のもと、安全に登校を行うことができた。今後も保護者・地域との連携を密にし、信頼感をさらに高めていきたい。				
	働き方改革の推進	●時間を意識した働き方の推進	・時間外勤務時間の学校全体の月平均時間を、45時間未満の月の割合を90%以上にする。	実施割合	入退校記録	100%	90%以上	80%以上	80%未満		2	3	今年度は、4月が月平均時間が48.2時間だったが、それ以外の月は45時間を下回った。達成率は90%という結果であった。働き方改革委員会や学年主任会で現状を把握し、業務分担や学年経営の方法、具体的な解決方法について話し合い、改善を進めた。来年度は朝の時間の過ごし方の精選及び改善、児童の登校時刻、時間外での保護者対応、各通信の配付方法について検討していくことで、時間を意識した働き方の推進を進めていきたい。				